

# 教育委員会の 事務事業の 点検・評価を 行いました

**美** 郷町教育委員会では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、外部評価委員会の意見を取り入れながら教育委員会の事務事業の執行状況について点検及び評価する取り組みを行っています。  
このたび、平成24年度の事務事業についての評価がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

## 評価の方法

はじめに教育委員会内の所管課が評価シートを作成し、内部による評価を行います。この評価内容について、町民や学識経験者で構成された「美郷町教育委員会外部評価委員会」より客観的な検証と改善に対する助言等をいただき、総合評価を行います。評価結果は町議会へ報告し、広報紙やホームページで公表します。

## 評価結果の概要

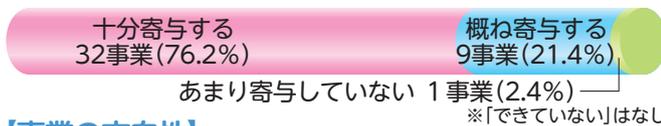
### 1 必要性について

(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか。)



### 2 有効性について

(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)



### 【事業の方向性】

今後の事業の方向性では、「現状のまま維持する」がもっとも多く、「さらに重点化する」と合わせるとおよそ8割を占めました。

さらに重点化する	現状のまま維持する	見直しのうえ継続する	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する
10事業 (23.8%)	24事業 (57.1%)	2事業 (4.8%)	1事業 (2.4%)	5事業 (11.9%)

### 3 経済・効率性について

(事務効率化、コスト縮減しているか。)



### 4 目標達成度について

(計画どおりに目標を達成できたか。)



### 【総合評価】

総合評価では、41事業において「A」または「B」となり、『優れた取り組みがあり、成果が上がっている』と評価されました。「C」評価となった1事業は、24年度限りで事業が廃止された「中学生国際交流事業」です。

A	B	C	D
優れた取組が多く、十分成果が上がっている	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要
29事業 (69.0%)	12事業 (28.6%)	1事業 (2.4%)	—

## 評価結果の総括

平成24年度に取り組んだ重点的な施策として、“美郷町の将来を担う人間の育成”を目指した家庭教育・乳幼児教育・学校教育の推進、“望ましい教育環境”のための小中学校施設整備、社会教育中期推進計画に基づいた社会教育の展開、文化財の整備保存及び活用などが挙げられます。

これらにおいて、おおむね良好な事業執行であると評価できたことは、多岐に渡る住民ニーズに美郷町教育委員会が応え、適正な業務執行が行われたためと考えられます。

一方で、刻々と変化する社会情勢に即した手段で子どもたち

の安全確保を徹底すること、住民の声に広く耳を傾け事業実施時に生かすこと、たとえ毎年継続的に実施している事業であっても“常に改善する”まなざしを忘れずに事業に当たってもらいたい等の指摘もありました。

今後も「美郷町後期基本計画」に基づき、計画的、効率的に教育行政の推進に努め、この点検・評価システムを取り入れながら『心豊かなまち』を目指して、より一層充実した教育活動を展開していきます。

■報告書は町ホームページでご覧いただけます。

担当課	事務事業名	昨年度評価	今年度評価	担当課	事務事業名	昨年度評価	今年度評価	担当課	事務事業名	昨年度評価	今年度評価
教育総務課	看護師配置事業	A	A	生涯学習課	中学校施設環境整備事業	A	A	生涯学習課	学習成果発表事業	B	B
	一時保育事業	A	A		認定こども園施設整備事業	A	A		映画鑑賞事業	B	B
	子育て支援事業	A	A		公共施設再編事業	A	A		ブックスタート事業	A	A
	不審者対策事業	B	A		青少年健全育成対策事業	B	B		文化財保護事業	B	B
	学校統合事業	A	A		家庭教育事業	A	A		文化財発掘事業	A	B
	就学援助事業	A	A		青少年教育事業	A	A		千屋断層保護事業	B	B
	奨学資金事業	A	A		成人教育事業	B	B		ニュースポーツ教室等事業	B	A
	学校交流事業	A	A		高齢者教育事業	A	A		冬期スポーツ教室事業	A	A
	学校生活支援員配置事業	A	A		伝統行事等伝承事業	B	A		少年スポーツ振興事業	B	A
	学力定着度調査	A	A		中学生国際交流事業	B	C		町民スポーツ大会事業	B	B
	ALT招致事業	B	B		芸術文化活動事業	B	A		スポーツ普及活動支援事業	B	B
	放課後児童健全育成事業	A	A		成人式事業	A	A		国民体育大会東北ブロック大会開催事業	—	A
	放課後児童健全育成事業施設整備	A	B		学習サークル支援事業	B	B				
	スクールバス運行	A	A		芸術文化団体支援事業	A	A				
小学校施設環境整備事業	A	A	舞台芸術等鑑賞事業	A	A						

# 全国学力・ 学習状況調査の 分析結果を 公表します

## Part 1

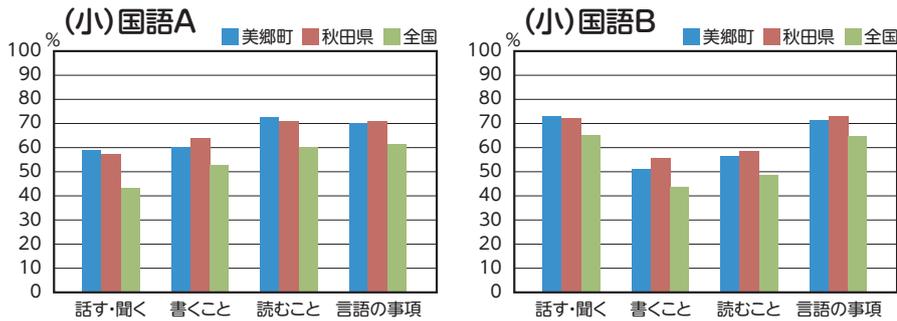
**今** 年度の全国学力・学習状況調査は、全ての公立学校が参加して実施されました。小学校6年生と中学校3年生が国語と算数・数学の2教科において、基礎的知識を問う「A問題」と知識を活用する力を見る「B問題」にそれぞれ取り組みました。

学力調査の分析結果をまとめましたので、その概要をお知らせします。

## 学力調査の結果概要

### 1. 小学校【国語】

下の二つのグラフに示すとおり、「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、A問題、B問題ともに秋田県平均を上回り良好です。「読むこと」においては、A問題では県平均を上回るもののB問題では下回りました。また、「書くこと」においてはA・B問題ともに県平均を下回り課題と言えます。



これらの調査結果を真摯に受け止め、12月の県の学習状況調査においては、課題を克服し成果を出せるように目指します。また、学習習慣や生活の状況等を尋ねる調査「質問紙調査」の結果については、広報美郷11月号でお知らせします。

### 2. 小学校【算数】

下の二つのグラフに示すとおり、「図形」に関するB問題は、県平均及び全国平均と同程度の平均正答率でしたが、「数と計算」「量と測定」「数量関係」においては、A・B問題ともに県平均を下回り、重点課題と言えます。設問ごとにもみると、小数の計算、台形の面積の求め方、三角形の合同条件、割合、棒グラフの見方等に課題が見られ、この後の定着を目指した取組が必要です。

